

簡単に布のしわを伸ばせて、まっすぐな線を引きやすくするガイド

納得するまで何度も繰り返し取り組む真美

縫製班の作業で、布に線を描くとき、真美は布を机の上に置くと、何度も布を手でなぞってしわをのばします。そして、印にものさしを合わせて、鉛筆で線を引き始めます。線を引き終わると、真美は、自分が引いた線をじっと見た後、引いた線を消して、もう一度線を引き直します。そして、引き直した線を見て、教師に「確認をお願いします。」と言って、布を見せます。教師が、「まっすぐに線を描くことができました。」と言い、布を真美に返すと、真美は、「ありがとうございます。」と言い、にっこりします。

このような真美が、一度で、布にまっすぐな線を描き、より正確に、より多くの作業を進められるようになることを願いました。



目印を頼りに活動する真美

朝の清掃の時間、真美は、ほうきで階段を掃きます。階段の両端に貼られたドットシールを見た真美は、階段の右端に貼られたシールの上にほうきの先を置くと、ほうきを左へ動かし、階段の左端に貼られたドットシールの上で止めます。たまったほこりを、一段下の階段に掃き落とすと、一段下の階段の右端に貼られたシールの上に、ほうきの先を置きます。

真美らしさを活かした支援ツールを考える

真美は、階段に貼られたドットシールを頼りにして、階段の端から端までほうきを動かし誇りを集めることができます。こうした真美らしさを活かして、布に線を描くとき、布をまっすぐに伸ばすことができる支援ツールに、目印をつけることでより正確に線を描くことができると考えました。

用意

材料 クリアファイル、ラミネートフィルム、ビニールテープ、ドットシール、布の写真
を印刷したもの

作り方

- ① クリアファイルの片側1面に、鉛筆をあてて線を描けるように、線を描く位置に鉛筆の芯の太さほどのカッターナイフで切り込みを入れる。
- ② 布の写真を印刷したものをラミネート加工し、クリアファイルの中に入れる。
- ③ クリアファイルの開いている短辺をビニールテープで貼り合わせる。

制作の工夫

- ・ 布を角まで押し込むことがわかるように、角に向けて矢印を書き込みました。
- ・ 線を描く両端にドットシールを貼り、点同士を結べば線が引けるようにしました。
- ・ 鉛筆を動かすための切り込みがわかりやすいように、切り込みの両端に赤色で縁取りをしました。線の始点と終点の位置にドットシールを貼りました。

